禁転載　©朝日新聞社
The Asahi Shimbun JAPAN'S LEADING NATIONAL NEWSPAPER
2011年３月15日（火）
朝日新聞 速報号外
朝日新聞
ご購読のお申し込みは
0120-33-0843

高濃度放射能 放出

福島第一原発 ２号機 炉心溶解

東日本大震災で被害を受けた東京電力福島第一原子力発電所（福島県大熊町、双葉町）の２号機で14日、原子炉内の水位が低下、燃料棒全体が水から露出して空だき状態になり、炉心溶融が否定できない状態になった。いったんは回復したが再度露出し、蒸気を排出する弁も閉まって水を補給しにくくなった。格納容器内の圧力を下げ、海水を注入できるようにするため、15日午前０時過ぎ、放射性物質を高濃度に含む蒸気の外気への放出に踏み切った。

東電の武藤栄・副社長は14日午後８時40分の会見で、空だきの状態になっている可能性を認めた。炉心溶融の可能性があり、格納容器が持ちこたえられるかどうかが焦点となっている。枝野幸男官房長官は同日午後９時すぎの記者会見で、燃料棒が露出した１～３号機の炉心溶融について「可能性は高い。三つとも」と述べた。

午後９時37分には第一原発の正門付近の放射線量が１時間あたり3130㍉シーベルトと、これまでの最高を記録した。